

中野操先生略歴

長門谷 洋治

明治三十年十月三十日 京都府船井郡富本村大字日置（現在八木町日置）で生まれる

大正九年 京都府立医学専門学校卒業、陸軍軍医任官

昭和元年 京都府立医科大学研究科学生（病理学・指導 角田隆教授）

昭和二年 予備役編入、陸軍一等軍医

昭和六年 医学博士の学位受領（主論文・「輸血ニヨル家兔肉腫移植ニ就テノ実験的研究」）

同 年 前記論文に対し日本病理学会総会において癌研究山極賞受賞

同 年 日赤大阪支部病院皮膚科に勤務。傍ら大阪市南区長堀橋筋一―二で皮膚科中野医院を開業。自宅は大阪市住吉区松崎町一―四五

昭和七年 この年より「文身と黴毒」、「清盛の死因について」など医史小品を『通俗医学』に発表

昭和十三年 億川撰三氏の首唱に呼応し医史学普及の目的をもって杏林温故会を興し全国に同好の会員をつのり

機関誌『医譚』を発行する（二月、発会式ならびに創立記念講演会。五月、例会）

昭和十六年 『皇国医事大年表』の編著に対し昭和報公会より奨学金受領

昭和十七年 『皇国医事大年表』東京南江堂より刊行

昭和十九年 第二次世界大戦により社会情勢は次第に窮迫暗澹、ついに当局の要請により『医譚』第十七号をもって休刊

この間終戦まで三たび応召（昭和十三・十四、昭和十六―十八、昭和十九―終戦）第百四師団、陸軍病院船、天津陸軍病院、大阪連隊区司令部で軍務に服した

昭和二十年 大阪市阿倍野区晴明通六一―八で中野医院開業

昭和二十二年 五月、杏林温故会戦後第一回例会

昭和二十四年 杏林温故会を母体として日本医史学会関西支部創立

昭和二十七年 機関誌『医譚』復刊第一号（通号第十八号）を発行

昭和二十九年 内山孝一日本医史学会理事長の協力要請により伏屋素狄の研究に従事、三木栄の協力を得て新知見を得る

昭和三十一年 第五八回日本医史学会総会（東京）において「大

阪蘭学史」特別講演

昭和三十二年 第五九回日本医史学会々々長（大阪）。前日には公開講演会を行う（三月）

同 年 『医譚』発刊二十周年記念祝賀会（十月）

昭和三十三年 第六〇回日本医史学会総会（東京）において内山

孝一會長より医学史の發展と普及につくした多年の功勞に対し感謝状をうける

昭和三十四年 『大阪医学風土記』刊行

昭和三十八年 緒方洪庵百年忌記念事業として、大阪市立博物館で行われた『緒方洪庵』展に協力。宗田一と図録を編集。記念講演会（三月）

同 年 第六四回日本医史学会総会々々長（大阪）

昭和四十二年 『医譚』発行三十周年記念特集刊行（医譚復刊第三五号、通号第五二号）記念祝賀会

昭和四十三年 開業医にして多年医史学の發展につくした貢獻に対し日本医師会（武見太郎會長）より最高優功章をうける

昭和四十五年 『浪華医家名鑑』（原刻弘化二年）復刻に対し「解説篇」執筆刊行（前田書店）

昭和四十七年 『増補日本医事大年表』刊行（京都思文閣出版）

昭和四十八年 『毎日放送』企画刊行の『大阪文化双書』所収『大阪の蘭学』執筆

昭和五十年 第七六回日本医史学会総会々々長（大阪）

昭和五十一年 大阪府医師会（山口正民會長）より医学功勞者として表彰される

昭和五十二年 『医譚』中野操先生傘寿祝賀記念誌刊行（医譚復刊第四九号、通卷第六六号）

昭和五十四年 『大坂蘭学史話』刊行（思文閣出版）日本医史学会五十周年記念式典にて功勞者として表彰をうけ

る

昭和五十五年

日本医学文化保存会より医学民俗関係の錦絵二百点寄贈により感謝状をうける。『錦絵医学民俗志』刊行（金原出版）

同 年

大阪市長より文化功勞に対して市民表彰をうける『船場の医者』（大阪市東区医師会三十周年記念誌）中の『江戸時代 船場医人伝』執筆

昭和五十八年

昭和六十年

『大坂名医伝』刊行（思文閣出版）『大坂医師番付集成』刊行（思文閣出版）『医譚』中野操先生米寿祝賀記念誌刊行（医譚復刊第五四号、通卷第七一号）

昭和六十一年

三月二十一日没。享年八十八歳

中野操先生著作目録

長門谷 洋治

単行書

書名	発行所	発行年月	備考
皇国医事大年表	南江堂	昭和七・二	栗田口療病院時代執筆担当
京都府立医科大学八十年史	京都府立医科大学	昭和三・八	
大阪医学風土記	自家版	昭和三四・十	グラビア版 宗田一共著
緒方 洪 庵 増補日本医事大年表	適塾記念会	昭和三八・三	復刻再版増補
浪華医家名鑑解説 篇	思文閣	昭和四二・十二	前篇弘化二年版復刻
大阪の蘭学	前田書店	昭和四五・十	大阪文化双巻の第九問所収
大坂蘭学史話	毎日放送	昭和四九・十二	
錦絵医学民俗志	思文閣出版	昭和五〇・三	
船場の医者	金原出版	昭和五五・七	江戸時代船場医人伝執筆担当
大坂名医伝	大阪市東区医師会	昭和五七・四	大坂医学風土記の訂正増補
	思文閣出版	昭和五八・四	

題目	掲載雑誌	巻号	発表年月
大坂医師番付集成	前田書店	昭和六・四	索引・解説 古西義磨 (番付四十枚復刻)
年表・年譜・目録の編者			
明治京都医事年表	日本医史学雑誌	二九・二五号	昭和六・三
支那医学年表	医 譚	一七号	昭和九・六
種痘伝来百年記念資料展観目録	京都府医師会報	八号	昭和三五・十
江戸後期京阪に於ける近代実証医学史料展観解説目録	医 譚	復刊 一四号	昭和三五・三
家藏牛痘種法資料目録	医 譚	復刊 三号	昭和三六・五
山脇家系譜	医 譚	復刊 三三号	昭和三七・七
山脇東洋年譜	医 譚	復刊 三三号	同 七
緒方洪庵年譜	医 譚	復刊 三三号	昭和三六・九
緒方洪庵関係文獻	医 譚	復刊 三三号	同 九
富士川游略年譜	医 譚	復刊 三三号	昭和四一・六
大阪府医師会史年表(明治期担当)	大阪府医師会史年表		昭和四二・十一

論 著

題 名	掲載雑誌	巻 号	発 表 年 月
日本最初の赤十字旗に就て	日本医事新報	六三三号	昭和十七
我邦に於ける皮下注射特に水銀皮に下注射の濫觴に就て	治療及処方	一八五号	同 七
我邦に於ける尿閉のカテーテル療法に就ての史的考察	日本医事新報	七〇九号	昭和十七・四
輸血と文芸	ペ ン	同	同 十二
日本牛痘濺觴史譚	日 新 治 療	三五号	昭和十七・六
江戸時代の性的衛生思想に就て	臨床の皮膚泌尿と其境域	第二卷 一〇号	同 十
浄瑠璃医観	通 俗 衛 生	五三三号	昭和十七・一
牛痘日本移入史考	日本医事新報	八六八・八号	同 四
我邦医家の最初の洋行(留学)に就て	医 譚	三三三号	同 七
南 支 漫 筆	日 新 治 療	六四号	昭和十七・二
シーボルトの漢字名	治療及処方	二四三三号	同 四
明治初年の京都とドイツ医学の輸入	医 譚	六号	同 九
我邦検査思想の勃興と其影響に就て	臨床の皮膚泌尿と其境域	第五卷 一〇号	同 十
維新前後に渡来せる外国医家とその漢字名に就て	医 譚	八号	昭和十七・三
瀧人を描いた木板画	医 譚	二二二号	昭和十七・四
人痘接種に関する中国医書に就て	医 譚	五五号	昭和十七・六
纏足の医学	医 譚	一七号	昭和十七・六
中国に於けるアメリカ医師の活動	大阪医学雑誌	第二卷 一〇号	昭和十七・十
種痘伝来とシーボルトの貢献(第二回日本医師会設立記念特別講演)	日本医師会雑誌	第三卷 一〇号	昭和十七・十
モーニッケのことども	診 療 室	第二卷 七・九・一〇号	昭和十七・七
京都種痘創始者 日野鼎哉先生	京都府医師会報	八号	同 十
京都を中心とした種痘伝来史	京都府医師会報	八号	同 十
日本種痘伝来史と大阪	予 防 医 学	第三卷 二二二号	同 十二
呉秀三先生と「シシボルト先生其生涯及功業」	日本医事新報	一四三三三号	昭和十七・五
明治初期の衛生学	同	一四二九一・四三〇号	同 七
明治初年の京都医学界	京都医学雑誌	第二卷 一三三三号	同 十二
新宮涼庭とシーボルト	綜合 臨床	第一卷 一〇号	昭和十七・十
性病に関する迷信	臨床皮膚泌尿器科	第二卷 二二二号	同 十二

稲沢宗庵と体温測定	日本におけるカテテル導尿法の文献的考察	「奉使日録」をめぐって	堺県医学学校と校長森鼻宗次	医者一番附	明治初年の京都と外国人	徳川撰三先生	伏屋素狄の研究	石炭酸史断片	石川大浪のこと	大阪蘭学史	大阪蘭学史要	顕微鏡についてのわが国最初の文献	ボムベの種痘書について	小石元俊の医学上の功績について	関西における西洋医学教育について	医薬に因む浪華の足跡
治療	医	日本医事新報	日本医史学雑誌	綜芸	医文芸	日本医事新報	医	薬事日報	綜芸	日本医事新報	医	医	日本医事新報	日本医事新報	第一五回日本医学会総会学術集会記録	武田薬報
第三卷 四号	復刊 二号	一五五号	復刊 一号	一八一九二〇号	第一卷 四号	一五七号	復刊 七号	一八五号	三三〇号	一六三二六五号	復刊 一四号	復刊 一五号	二七九号	一八〇九号	第一卷	
昭和二六・四	同・五	同・九	昭和二九・四	同・四五・七	同・四	同・九	昭和三・三	同・四	同・九	昭和三・五	昭和三・三	同・九	昭和三・五	同・十二	昭和三四・四	同・四
医学の跡をたづねて(大阪)	西南の役における博愛社救護班の活動について	木村兼度堂をめぐる医家たち	日本における赤十字思想の発展について	大阪の蘭学とその特徴	緒方洪庵と堺の医人	華岡青洲先生生誕二百年を記念して	緒方洪庵とカネ医学の跡をたづねて(伊勢)	山脇東洋二百年忌に寄せて	「察病亀鑑」の著者青木浩齋について	書簡からみた頼山陽の咯血	源氏物語にみられる病氣とお産	前野良沢の晩年に				
実 験 治 療	日 赤 医 学	医 譚	日 赤 医 学	武藤記念講座講演速記	和 泉 志	日本医事新報	医学のあゆみ 実験治療	京 都 医 報	蘭学資料研究会研究報告(以下蘭研報告)	日本医事新報	YTV放送台本(日本の文学)	日本医事新報				
三八号	第三卷 五号	復刊三〇・三三・三四・三六・三〇	第三卷 一号		二号	一九二〇号	第三卷二〇号	三三七号	二二二号	二〇〇号	一七四回	二〇三号				
同・八	同・九	同・八 一三九・十三	昭和三五・一	同・十一	同・十三	同・十三	昭和三六・三	昭和三七・一	同・四七	同・九	同・十一	昭和三八・四				

適塾と久坂玄機 医者・人としての 緒方洪庵先生 目で見える医家風俗 志	北区医師会会誌 日本医事新報 いづみ	六四号 二四三三号	同 同 昭和三九・六	晩年の橋本宗吉 阿倍野墓地と二人 の医人 新元会図中の西哲 像について 坪井信道の日習堂 塾創立について 日習堂とその平面 図について(青 木一郎共著)	医譚 阿倍野区医師会 報	復刊六号 七〇号	同 昭和三九・三
ロイトルとボード インー同一人説 を否定す— 大阪における蘭学 の学統について 明治初期の大阪医 学校とオランダ 人教師 シーボルトの『治 療日記』	日本医事新報 蘭研報告 蘭研報告 蘭研報告	二〇八号 二七号	同 昭和平・二 昭和平・一	蘭学界の先覚者坪 井信道 ヒボクラテスの漢 字名について 大阪の吉益家につ いて ヨングハンス覚え 書	日本及日本人 蘭研報告	蕙風号 三七号	昭和平五・五 同 同 同 同 同 同
蘭学者と経済生活 土肥慶蔵先生の 『世界微毒史』 をめぐって (生誕百年記念 講演)	日本医事新報 日本皮膚科学会 雑誌	二九三九四号 第一六巻・九号	同 同 同 同 同 同	大阪性病学史話 (第百回日本 皮膚科学会大阪 地方会記念講 演)	医譚	復刊三三号	同 同 同 同 同 同
石川大浪のことも 癌という漢字につ いて	日本医事新報 日本医事新報	三三九号 三四八号	同 昭和平・五	大槻玄沢と大阪 日本人の描いたシ ーボルト画像	蘭研報告 医家芸術	三三三号 第六巻二号	昭和平七・十 同 同 昭和平六・六
『日本洋学編年史』 の補訂 名塩の医家億川百 記をめぐって	蘭研報告 西宮文化	一九六・一九九号 一四号	同 同 同 同 同 同	ハイステル Heiss Tan の画像につ いて 若き日のシーボルト 山脇門下の若越医 人について	蘭研報告 大塚薬報	三三三号 二〇〇号	昭和平六・六 同 同 同 同 同 同
大阪蘭学史跡並解 説	蘭研報告	二〇八号	昭和平五・五		医譚	復刊四五号	同 同 同 同 同 同

大阪の蘭学 橋本宗吉より緒方洪庵まで(大阪府医学会特別講演)

シィポルトと門人たち

木村兼葭堂と蘭学者

華岡青洲先生とその時代(近畿学校医連合会総会特別講演)

大庭雪斎と大阪コレラ流行史

日本最初の強制種痘(蝦夷種痘)私の医人伝・橋本宗吉

大阪の蘭学とヒュームニズム

津田進三氏の「杉田玄白と華岡青洲」を読んで

中天游を見なおそう

大阪府の 医史

明治初期の大阪医学校とオランダ人教師

大阪の蘭学事始め

大阪市立大学医学雑誌

和蘭字彙月報

大阪春秋

学校医連合医学雑誌

医学選粹

適塾

日本医事新報

適塾

図録日本医事文
化史料集成

日蘭のかけ橋

日蘭のかけ橋

第三卷
七九号

四・五号

四一九号

復刊第三号

五号

八号

一四号

一四号

二七〇号

三

三

昭和四九・九

同

同

同

昭和五・一

同

同

同

昭和五四・四

同

昭和五六・七

錦絵医学民俗志

日経メディカル 三九号

昭和五九・一

〔後記〕

中野操先生の略歴および著作目録については、先生ご自身が『医譚』の復刊第三五号(昭和四十二年)および第四九号(同五十二年)に記しておられ、今回はそれを基本とし、さらに略歴については、松田武氏の「中野操先生年譜」(『適塾』第一九号、昭和六十一年)を参考にし、ご令息にも聞いていただいた。中野先生は他に多数の小品・随想をものしておられ、また講演も学会以外に頻繁に行われて、それらの目録を残しておられるが、今回は割愛させていただいた。編者の不注意から晩年期を中心に見落した項目、論著もあるかと思われ、お詫びとともに、追訂をお願いしたい。

(大阪府豊中市)